

105人の保護者アンケート | 自由意見

不登校の子を持つ保護者への経済的支援アンケート【匿名化公開版】

2026年5月に実施した105人の保護者アンケートのうち、自由記述として寄せられた73件を掲載しています。仕事や収入への影響、学校外の学び・居場所、食費・光熱費、交通・送迎、情報や相談、地域による支援の違いなど、家庭の暮らしに生じている負担と要望が記されています。

※個人や居住地域等が特定されないよう、主旨を変えない範囲で、地域名・施設名・肩書・正確な学年・家族構成・特徴的な金額・診断名等を削除または一般化しています。

※掲載内容は回答者個人の経験・意見を含み、記載された事実関係を主催者が確認・認定したものではありません。

元資料：『不登校の子を持つ保護者への経済的支援を求める』ためのアンケート 自由意見（2026年5月26日）

VOICE 001

きょうだいの為、高校を公立と考えていたが通信になると学校によっては授業料が高額になるとの事、フリースクールを探した時も利用料が2人分だとかなりの経済的に負担になる為支援があると有難いです。

VOICE 002

フリースペース利用料や通うための交通費の経済的支援があると非常に助かる。
市のフリースクールなどお金のかからないところもあるが、必ずしも子供に合うとは限らないので、そういう場所があるからといって安心しないで、すべての不登校の家庭に金銭的支援をしても raitai。
お金以外にも仕事の調整、家族婦での分担、兄妹への影響、学校との調整等々、気にかけることが多いため、金銭面での負担が減れば、心配事が一つ減るので、精神的に助かる。

VOICE 003

別室でオンライン授業を受けるのは、いじめた生徒だったり（子どもの学校）いじめられた生徒だったり（子どもの学校）と異なるのが現状。子どもの学校ではいじめた子その後不登校になりましたが、非がある側も不利益を被った側も同じように税金を納めているし、子供の性格や親の支援によって完全引きこもりになる可能性もあるので、それを防ぐためにも学習支援に軸を置いた経済的 支援が必要だと思います。

VOICE 004

公立の無償化で育てていくはずだった家庭が、教育システムのミスマッチによ、子どもが精神的に落ち込み、親も離職せざるを得ない。それなのに、金銭的支援もなく多様な学びを子どもに与えるということは、非常に理不尽なことです。子どもに何かしてあげたいけど、物理的にも金銭的にも難しく、どこにも行けない家庭さんはどこにすればいいのでしょうか？
子どもたちに、あなたらしく生きていいんだと思って生きられるような社会づくりを、考えていた だきたいです。

VOICE 005

子供が外出できない状態のため、フリースクールなどへの助成があっても使う機会がない。非正規であっても、親が働けているだけで、受けられる支援はほぼない。子供の安定のためには、まず親を支える必要があり、生活を支えるための経済的支援が必要だと思う。

VOICE 006

フリースクールや、学校以外の居場所につながっている場合の費用だけではなく、不登校により世帯収入が大きく減った場合にも経済的な支援が欲しい。

VOICE 007

本来税金でまかなわれるはずの義務教育期間は、本人に合った形で平日自宅で行う全てに補助が必要。食費・活動費・水道光熱費などなど。もう諦めました。本来は誰もが安心して通える学校運営にしっかりと税金を使って欲しい。少人数クラス・個別サポートを実現すれば不登校は減ります。

VOICE 008

学校に行けない子供がいる。不登校でもフリースクールには行ける子供がいる。小中学校は義務教育だから無料だが、フリースクールは有料である。フリースクールには送迎が必要。フリースクールの費用とフリースクールへの送迎の費用を支援して欲しい。子供には教育を受ける権利がある。国には子供に教育を受けさせる義務がある。教育を受ける権利を持つ子供がフリースクールでの教育を希望した場合、国はフリースクールでの教育を受けさせる義務があると考えます。フリースクールへの経済的支援は必要である。

VOICE 009

水道光熱費、食費、学校までの送迎によるガソリン代で出費が加算でいます。一人で子育てを担う家庭なので、仕事に行かないと収入が無くなります。1人で留守番をさせているという不安もあります。ですが、学校以外に他の場所があるとしても、本人に行く気がなければ動き出せません。

VOICE 010

物価高であり家族の収入だけではなかなか厳しいが、子どもの不安が強かったり、1人1人に合わせて、行けそうなタイミングでの付き添い登校、送迎なので、私が働きに出ることは不可能。貯金を崩してなんとか生活しているが、この先いつまで続くかわからない状況で、どうなるか不安である。

VOICE 011

公的な支援の場のような創作活動・スポーツを促す活動が合う子もいれば、ただ居場所があって好きな過ごし方を選べるフリースペースを選択する子もいます。どちらも選べるように助成金を実施されるとありがたいです。

VOICE 012

学校以外の居場所やフリースクール等に、経済的な理由で行けない人も多いと思う。小中学で不登校で、高校は行きたいと思っても、費用がかかる私立高校、通信制高校しか選択できなかったりする。

VOICE 013

子供が毎日終日学校以外の場所で過ごすことでお金がかかっていることを知られてなさすぎる。食費や光熱費に加え、少しでも外に出ればとの気持ちで、ちょっとした外出も増え、交通費や遊興費もかさむ。学校からプリントが来るため、学級費も引かれている。現実には即した支援をしてほしい

VOICE 014

どこの地域に住んでいても同じような経済支援をしてほしい。どんな子も元気に社会に出ていけるような道すじをつくってほしい。

VOICE 015

フリースペースにも行けない子がいるのでそこまで支援してほしい

VOICE 016

フリースペースにも行けない子にはせめて給食費相当の食費補助がほしい

VOICE 017

・子どもが不登校になったことにより、1人で留守番できない不安定な精神状態だったため、フルタイムの仕事を辞めるしかなかった。収入が減ったのに、食費や光熱費等増え、通院とカウンセリ

ングも必須で家計も家庭内の雰囲気も悪く辛かった。

- ・全国的に給食費は無償化になるのに、不登校の子には昼食代の援助もないのは不公平だと思う。

他自治体独自の有機野菜の給食は不要。他自治体では修学旅行費や制服代も支援されるが、不登校の子には恩恵はない。

- ・他自治体はフリースクール助成金はあるが、数万円ではまかなえない。週3〜4、日中、お

昼持参で毎月数万円はかかる。これに別途、遠足代などあり、もっと加算してほしい。

- ・心身の特性や体調上の事情があり、毎月の通院やカウンセリングが欠かせない。医療機関や医療機関は医療証ではカバーできない予約料が存在し、診察だけだとしても毎月一定額はかかる。一定額×しばらく×数年、としても数万円+通院にかかる交通費もある。カウンセリングを希望すれば一定額。放課後デイよりも通院費を補助してほしい。(福祉サービスは通いたくても満員で空きがない場合も多いので。また、心身の特性や体調上の事情と診断された子は定期的に通院している子がほとんどだと思うのでみんな困ってると思う。)

VOICE 018

学校付き添いで働きに行ける時間もなく。下の子のシッター代が嵩むので付き添い登校している親にも経済的支援が欲しい。買い物に行く時間や家事をする時間が取れず外注するしかなくとにかく支出しかない。身動きの自由もなければ金銭的自由もない。メンタルもやられて親の精神安定のためのお金もかかる。色々と困りごとが出てきているので世帯収入の金額に関わらず経済的支援をしてほしい。切実です。

VOICE 019

学校で辛い目に合ったり環境が合わなかったり等で不登校になり、親子で長く悩んで苦しんで、学校以外で何とか学びや居場所を失わないためにその子に合うであろうフリースクールをようやく見つけたとしても、経済的負担があまりに大きく諦めざるを得ないという現実があります。無料の公立フリースクールを利用するよう提案されても、不登校になった子達の多くは、そもそも心の傷が大きかったり公立のやり方や雰囲気が合わなかったりして、公立フリースクールへ通えるようになることは少ないです。合う環境や、心を回復させるのに適した居場所は一人一人違います。本人たちがこの場所でなら安心して学んでいけると感じられるような民間・NGO等フリースクールへ、経済的なことを理由にして諦めることなく通えるよう、支援をお願いできましたら幸いです。例えばですが、各家庭が利用している(これから利用したいと思っている)フリースクールがふるさと納税の納付先になっていて、そこに直接納税することができたら、納税しながらスクールの運営を直接支える事が出来るのではと考えることがあります。不登校になっている、なっていないに関わらず、全ての子供たちが多様な育ち方をお金を気にせず選べるようになるよう願っています。

VOICE 020

公立学校に通わせていた親にとって、ただその学校との相性が悪いだけで不登校になり、かと言って、公立学校以外に我が子が楽しく通える場所の選択肢も情報もあまりなく、経済的な負担が増える一方なのは不安でしかありません。公立学校が、どんな子どもも楽しく通える場所に大きく変わるまでには時間もかかるでしょうし、それまでの間は経済的な支援がどうしても必要になると思います。

VOICE 021

通うための交通費もバカにならない。

他自治体では今も学生定期券の購入ができるが、そのための手続きが複雑で、学校での周知も浸透していないため、負担も大きい。もっと簡略化もしくは情報を分かりやすく広げてほしい。

VOICE 022

経済的支援があっても、親が情報を集めるのは困難。(例えばフリースクールに学割が使えることをしばらく知らなかった。)情報を集約している公的な機関があるのがのぞましい。

VOICE 023

出勤する前に留守番している間の食事を用意するのが大変だった。食事の支援があると助かると思います。

VOICE 024

子どもは、家から1時間ほどかかるフリースペースを気に入って通っていましたが、通学定期を発行してもらえませんでした。鉄道事業者の駅員に「教育機会確保法という法律もあります」などと言って交渉しましたが、非常に冷たい態度で拒絶され、そのやりとりを見ていた当時中学生の子どもはショックを受けてその場で泣いてしまいました。わたしもとても悔しかったのですが、「いくら法律ができて、不登校の子はこうやって差別されるんだよ。悲しいけどこれが現実なんだよね」と伝えました。経済的な援助を行政がしてくれるのはありがたいですが、こういう足元の差別をなくす指導から始めてほしいです。

VOICE 025

食時代光熱費が掛かってきた

VOICE 026

子どもが学校に行こうという気になれば、送り出したいが、行くか行かないかはっきりするのは当日の出発時刻。遅刻して登校なら親が送る必要があり、仕事には行けない。うちはたまたま家族が完全在宅勤務のため、母親の私が仕事を辞める必要はなかったが、それでも勤務時間の配慮はかなりしてもらっている。家族が在宅でなければ、退職せざるをえなかったし、フリースクールにも通わせられなかったかもしれない。ずっと家にいるので食費もかかる。経済的な理由でフリースクールや別の居場所を確保するのもためらう。フリースクールに行っても、勤務時間は増やせないのに出費が増え、子供のこととお金のことのWで精神的負荷が大きい。学校に行っていないので、塾に通わせたいが、そんなお金はもうない。保護者への経済的支援がある他の自治体がとても羨ましい。兄妹で不登校の時期があったので、2倍できつい。

VOICE 027

不登校になると、食費や学習費、フリースクールなど行くと利用料、交通費などお金がかかります。しかも完全に不登校でなければ、給食費、教材費など止められないので、二重に費用がかかります。しかも小学生の間は保護者が送迎や家庭での見守りも必要になるわけで、働ける親ばかりではない中で経済的負担は増えます。経済的に難しいために、学習の機会や体験の機会を逃し、通学する児童とさらに格差ができていてことを実感しています。

VOICE 028

公立の学校に通えば全て無償なのに、様々な理由で通えない子どももいます。同じ税金を支払っているのに不公平だと思います。税金からフリースクール等を利用する際の補助金を出して欲しいです。

VOICE 029

どんな行政からのサービスがあるのか、手続き等も分かりやすくして欲しい。こちらから探さないと行けなかったり、最初に頼りになるはずの学校でもあまり情報がなかったりで最初の頃は本当に困りました。結果特になんの支援も受けてませんが、我が家に関してはたまたまそれでもうまくケアができてる感じですが、これが一人で子育てを担う家庭や収入が少ないご家庭だと本当に親子で心身共に病むと思っています。特に金銭面でも支援は早急にお願いしたいです。

VOICE 030

学校への遅刻早退、欠席の場合の居場所の確保、病院とのやりとり。親がやるが多すぎて疲弊します。市町村によっては不登校時の対応が具体的に決まっているところもあります。決まっていれば親も先生も悩まずにスムーズに別の居場所に繋がれると思います。わからないこと、保護者が動いて確認しないといけないことが多すぎます。親の片方は満足に仕事はできません。

VOICE 031

所得税等の収入関係なく一律に不登校児を、抱える家庭に毎月食費だけでも支援をお願いしたい。

VOICE 032

経済的支援は欲しいが、そうすることで増税になってしまうのでは、と心配。

また、学校のシステムややり方が合わない故の、元々不登校ではないが自主的に不登校になる場合はどうなるかも、知りたいです。（我が家のケース: 登校しぶり→スモールステップで完全登校→自主的不登校〈第三の居場所は見つけたが、費用が高いので正直家計が苦しい〉）

VOICE 033

自治体在住です。不登校家庭への助成金支給が困難なのであれば、せめて給食費の都度払いを全市的に取り扱って欲しいです。各学校で運用に差があり、子どもの通う学校は都度払いを了承していただけません。

自宅学習のツールの充実・無償提供

人材の確保(別室登校や公的な支援の場合など)間接的な方法でも構わないので、不登校児童を支える仕組みが増えることをのぞみます。

VOICE 034

子どもが不登校になった時、子どもの将来を悲観しましたし、不登校から辞職せざるを得なくなった時には、これからの生活、経済的にどうなっちゃうんだろうと、とにかく全てにおいて不安で不安で、不登校を受け入れて生活を建て直すのに数年かかりました。

我が家の場合、子どもが子どもらしい笑顔を取り戻すのに、フリースクールや安心できる居場所は不可欠でした。学校へ行かなくても、フリースクールで出会った大人や仲間との信頼関係や主体的に行動する術やコミュニケーション力をフリースクールで学びました。

ただ問題なのは、フリースクールは高いです。週に複数回通うのに毎月数万円します。

せっかく子どもに合うフリースクールと出会えても週に複数回通わせるのがやっとだったりします。周りではフリースクールへ行きたくても経済的理由で通えない子も居ます。

どうか、学校へ行けない子が安心して第三の居場所へ通える様に経済的支援をお願いします。

VOICE 035

子どもが不登校になったことにより、経済的な不安が続いています。しばらくは家庭で過ごし、現在はフリースペースへ行くことで元気になりますが、参加日数を増やしたいとの本人の希望に応えられず制限せざるを得ません。

他の兄妹も、現在、学校では別室登校であり、その子もフリースペースへ行きたいと言われても参加させてあげられるかわかりません。

少しでも行政などから、経済的な支援を受けられれば選択肢が広がり、一人ひとりの多様な学びにも繋がると考えます。

VOICE 036

其々の家庭環境が様々な中で、こうして欲しいと言う意見が色々あると思います。

我が家は一人で子育てを担う家庭、不登校になったのが低学年という、子どもを1人にする事が出来ない年齢のなかで1番必要だと感じたのは、①家以外に過ごせる第二の我が家の様な場所。

この場所は地域の人々が交流も出来、宿泊もできる場が理想です。②状況を理解して家などで一緒に過ごしてくれる方々。

学校や役所、病院、色々な団体に相談に行きました。自分で動かないと情報が手に入らない。。。

本当に情報を見つける事が難しく、ましてや子どもの状況によって変わっていくので情報探しはとっても辛かったです。

数年経った中で現在はフリースクールや地域の居場所の皆さま、学校の先生方や役所の方々に大変お世話になっていると感じています。ありがとうございます。

働く事が難しく貯金を切り崩し生活する中、貯金が無くなったらどうしよう。。。と親が不安定になってしまう状況が更に子どもを不安にさせてしまうと言う負の連鎖を断ち切る為、こうした場合の助成金が必要だと痛感しています。

VOICE 037

不登校児のいる家庭は昼食代、学習ドリル代、家にばかりいられないので外に出た時の電車代など、すべてが家庭でまかなう。不登校しているのは勝手だから、それは各家庭で引き受けるべきと

いう世の中、教員の中の常識は共に生きるという視点からも、みんな違ってみんないいと言われる視点からも大きくずれていると感じる。

VOICE 038

本人がフリースクールなどに関心を持っても、入学金が必要だったりと費用の負担を考えると、気軽に試すことができない。前向きな気持ちを大事にするためにも、経済的支援があると前に進む事ができると思う。

VOICE 039

学校でのいじめによる不登校だったのですが、教師からいじめに会うのは本人の責任と言われ自殺未遂しました。自傷行為があると受け入れてくれる場所も減ります。スクールカウンセラーや別室登校など学校内に不登校児童のための環境を整えてはいますが、トラウマにより学校の門から中に入れません。そうすると外部のカウンセリングへ通ったり通える施設を探すことになりま。保護者自身も体調を崩し通院し、カウンセリングを受けました。カウンセリングは保険がきかないのでかなりの出費となりました。高校は通信制サポート校へ行きましたが学費が高く借金をしてようやく卒業しました。いまでも返済が続き苦しい日々が続いています。

VOICE 040

現在、他地域のフリースクールに通っています。お友達のほとんどが他地域在住で、助成金を得ての通所。うちは自治体のため、助成金ゼロの状態で、経済的負担が大きいと感じています。(フリースクール学費のみならず、交通費と昼食費も加算) 他地域への引越しも検討いたしましたが、他の兄弟児(きょうだい)の兼ね合いで、それも簡単には行かない状況です。同じ日本国民なので、格差の緩和を希望いたします。

VOICE 041

必ずどの自治体も保護者への支援をすべきである。学校教育は税金で賄われており、税金を納めているにも関わらずそのサービスを享受出来ないのは、環境を整えられない自治体、政府の責任である。不登校で職を離れざるを得ないのは主に母親であり、女性管理者の増加、女性取締役を数年に30%を目指す国でこの状態が放置されている現状に愕然とする。35万人以上が学校に通えないことによる経済的損失は、該当する家庭だけではなく社会にとっても巨額な損失であり、不経済に対する政策を急ぐとともに、損失への手当は必須であるとする。

VOICE 042

孤独だけで1人の時間さえ作ることが難しく、働くこともままならない（特に）母親が不登校児とほぼ同数いる可能性に気付いて欲しい。なのに進学にしても生活にしても勉強にしても自力でなんとかしなければならず、より孤独感に苛まれている。本当なら教育を受けさせる義務がある学校からも相手にされず、経済的にも心理的にも追い込まれてしまう。お金の問題では解決できないこともあるが、補助があるだけで親子の心理的な余裕もでき、社会に出るきっかけを逃すことがなくなるから可能性もある。これだけたくさんいる不登校の家庭に支援の目を向けて欲しい。

VOICE 043

食費と交通費の負担が大きいです。学校給食は年に数回しか食べて帰ることはないですが、支払いを止めたらたまに登校できた日に食べることはできないと学校に言われたことで払い続けていることが精神的に苦痛です。フリースクールや他の外出先に向かう際、子どもが学校の近くを通れない、学校の子に会いたくないという理由から、徒歩圏内でもバスやタクシーを利用することも多く、電車も多く使うため、どこへ行くにも親子分の交通費が嵩み、公的な支援制度等も所持していないため支援が全くありません。

不登校が増えているとは言えまだ少数派である立ち位置に経済的支援が全くないこと、放っておいて良いのかと、苛立ちさえおぼえています。

VOICE 044

子供が不登校になると家庭の生活スタイルが大きく変わり、物理的にも心理的にも負担が大きくなります。そこへ経済的負担がかかる事は更に苦しい状況になります。疲弊しゆとりの無い状況になりやすいですので、手続き等負担の無い形での経済的支援を求めます。

VOICE 045

たくさん収入があるひとはそのまま、本当にない人に必要な支援をしてほしい

VOICE 046

前例がないからと取り組まないのではなく、先取りしている自治体にならって多くの自治体でフリースクールの金銭的補助をしてもらいたい。身近に一人で子育てを担う家庭で金銭的理由からフリースクールへ通わせられず、子どもを家か公園で一人過ごしている方がいる。

VOICE 047

学校へ行かない分、昼食代がかかります。また教材がわりに書籍の購入、興味を持った工作などの材料費、遠足や社会科見学がわりの外出など、一回ずつは多額ではないですが、じわじわとお金がかかるなぁという実感があります。

我が家は小学生なので、1人にしておくわけにもいかないで仕事を減らしたため、収入が減る中で、登校するよりもお金がかかり、気持ちのゆとりがなくなる時もあります。そのような中で何らかの公的支援があるならば、とてもありがたく、長い目で子育てができる時間が増えるのではないかと思います

VOICE 048

学校でのいじめや不適切な指導が原因で不登校になり、保護者が仕事に行けなくなっているのに、公的支援がないのはおかしいです。損害賠償請求したいけれど弁護士費用が出せません。せめて、経済的支援があればと思います。

VOICE 049

不登校をサポートするにはどのくらい仕事をセーブできるか、もしくは転職、退職するかという選択肢がでてきます。物価高、税金や光熱費がどんどん上がるなか、子を取るか収入を取るか、窮地に追い込まれる家庭もあるだろうと思います。他自治体や他自治体でできるのであれば、自治体も他都市を参考にし導入を検討していただきたいです。

VOICE 050

収入が減り、支出が増えるので経済的支援があればありがたい

VOICE 051

特に小学の子どもの場合、登校渋りや不登校になって保護者が仕事を辞めざるを得なかったという声が多いです。仕事を失い収入を失い経済的な自由を失い、その上で子どもの学ぶ場所としてフリースクールに通うには月数万は必要になる。うち子の不登校のきっかけは公立小学校の担任による子供たちへの不適切な指導だったのですが、税金が投入されている公的な学校でまともな教育が提供できないのなら、子ども達がオルタナティブな教育を選択できるよう、義務教育期間中のフリースクールやオルタナティブスクールの利用者に（公立小中学校と同様の）経済的サポートを向けてほしい。公立小中学校が変わるには時間がかかり、その間に子ども達が学びの場所を失ったままに漂流してしまうことがないよう、多様な学び場所への経済的サポートが必要と思います。フリースクールやオルタナティブスクールは公立学校とは違い、多様な子どもを取りこぼさないようたくさんの工家族をしてきている。私の子供はいまフリースクールで生き生き学び、学年相応の学力も身につけている。しかし正直なところ親の収入が大きく減ったうえに月数万のフリースクール代は楽ではなく、節約し老後の備えも取り崩して通わせている。フリースクールが近くにあっても費用が無理で通わせられないし、子供が家にいる状況では働きに

も出れず困窮している方もいる。子供達が、経済的理由で学びの場所を失ったままにならないよう、早くサポートをお願いしたいです。

VOICE 052

経済的支援もそうですが、行政サービスの現場を担う事業所等を増やさないと、サービスがいくらあっても意味ないので、事業所がないなら、自治体でその役割を担う人を雇うなどして、雇用も促進して欲しいです。また、そういう人を会計年度ではなく、専門職として継続して雇用して欲しいと思います。天下の自治体が、えっと思うことも多々あり、大きな自治体ゆえ難しいこともあるかと思いますが、頑張ってください。逆に自治体で始まったサービスが、周辺自治体に影響を与えることもあると思いますので、期待しています。

VOICE 053

助成金がもらえるなら、フリースクールなど選択肢が広がります。また食費、光熱費など絶対的に助かります。

VOICE 054

義務教育の中教育を受けられない。学校以外は金銭がかかる不平等さ…税金でまかなっているのに学校に行かない選択肢は税金で賄えない。

VOICE 055

完全不登校の期間が長かったため、ホームエデュケーションを取り入れました。幼魚採集、飼育をする費用、美術館や博物館に行くための交通費、入場料、講演会等に参加する費用、本代等にお金がかかりました。子どもの学ぶ権利を保障するために、かかる費用として支援してくれたら有難いです。

VOICE 056

フリースクール等が、金銭的理由でそもそも選べず、子供を家に引きこもりっきりにさせて仕事に行くことに大変罪悪感を持ちました。家に居ることも、フリースクールも、当たり前を選べたら、助かると思います。

VOICE 057

こう言った活動をして頂き本当に感謝してます。ありがとうございます。不登校の子供を持つ親として、経済的支援はとても必要な事だと思います。子供はすくすくと成長していき食べる量も増えていく一方で食費がどんどん増えているので…正直、生活費の不安が常にあります。いつか日本の経済が豊かになる事を切に祈ります。

VOICE 058

小学生低学年の不登校だと、一人で家に置いて働くことはできない。特に不登校の子は精神的に不安定な状態にあるし、生活習慣から勉強、健康と全て親が組み立て直さないといけないが、何をするにもお金はかかる。一般家庭だと高額なフリースクールにはいれられないので、選択肢がとても狭かった。不登校になった途端、義務教育の枠から外されたようで、居場所が見つかるまで本当に困った。

VOICE 059

収入格差、家族別姓

VOICE 060

給食無償化になったら不登校家庭にも給付金があったらいいと思う。うちの自治体は、小学校だけ無償化。今度中学に上がるので、関係ない、悲しい。小学校のように給食ストップしていても食べたい日に行けて、後払いできるシステムは、中学ではやっていないと言われた。食べない給食費は払いたくない。又、学校に行くきっかけが一つなくなる。

VOICE 061

まずは、このようなアンケートを実施してくださりありがとうございます。助成金などの経済的支援は、他の団体等からも出されておりますが、未だ実現されていません。不登校の我が子の学びのために、経済的支援は必要不可欠です。ぜひともよろしくお願い致します。

ここからは、経済的支援に対しての私の意見を述べさせていただきたいと思います。

アンケートのQ10を紐解く形が説明しやすいので、そうさせていただきます。決してQ10の設問自体を批判している訳ではないことをご理解いただけるとありがたいです。まず、Q10

の問いの①②③の中に、私の意見はありません。選択肢に④その他が、あれば、それを選んでいたと思います。

金銭的支援は求めていますので、その点においては選択肢の①になりますが、「他自治体や他自治体などと同じように」行ってほしいとは思っておりません。「フリースクールやフリースペース等に通う利用料等の金銭的支援」という考え方に危惧しており

ます。他の自治体がこのような支援をしておりますが、これだと、困っているのに支援の対象外になる家庭が複数でてきてしまいます。

アンケートの冒頭の文面に「家庭から出られない子どもが少なからずいる」とあります。まさにその通りです。そういった状況下では、フリースクールやフリースペースどころではありません。家から出られない子どもが留守番できないと親も外に出られないので、まずは、訪問可能なカウンセラーさんをさがしたり、特別支援に理解のあるオンライン上の子どもが興味を持てそうなサービスをさがしたりします。

VOICE 062

給食にかわる昼食の用意として、栄養も考えた冷凍お弁当などがあると、子どもが自分であたためてたべやすく有り難い。

VOICE 063

仕事との両立がどうしても難しくなれば、退職や休職と隣り合わせに感じます。親の余裕や安定が、子供への適切な関わりに繋がると感じます。

VOICE 064

経済的な影響は本当に深刻です。収入が減ることで子供の体験にけるお金も減ってしまいました。いつ状況が回復するか、回復したとしてもまた戻るのではないかと考えると、親の就職活動にも影響します。

VOICE 065

意味のある支援をなさっていると思っています。ただ、フリースクールに通える不登校児は全体の5%以下程度であることも知っておいていただけると嬉しいです。

VOICE 066

現在利用させていただいているフリースペースは1回一定額という設定で大変有り難く通っています。しかし授業等はないため学習面を補うためフリースクールを検討しましたが費用が高く、退職による収入減も追い打ちとなり踏み出せません。不登校の子どもがいる家庭で親がそれまで通り働き続けることの難しさ、どうしても発生してしまう出費の増加を理解いただき金銭的援助をご検討いただきたく存じます。

VOICE 067

- ・個別家庭に対してだけでなく、事業所に対する行政の予算をしっかりとつける。
- ・文科省、行政が”多様な学びの保障”を言うのであれば、それに対する予算を保障するのは当然のことです。「多様な学び」という言葉は、今や行政用語として都合よく使われているように私には感じられます。フリースペースなど運動を進める側も「支援」という表現をそろそろやめにしたらと思います。不登校の子どもに、上から目線でしてあげているという感じがぬぐえず、それを世間一般の認識として定着させる方向にもっていかれてるなぁ…と強く思います。

※学習指導要領の改定に伴う、不登校の子どもへの評価に関する審議会の議論などをみると

- ・「支援」でなく、当然の予算措置を制度として要求していくべきです。（「特例校」とか「特別支援」とかは、分けることそのものです。）

VOICE 068

子どもの数は少ないので、ぜひ税金を子どもたちのために使ってほしい。

VOICE 069

支援を受けることができれば助かるので、経済的支援をしてほしい

VOICE 070

経済的支援、ぜひお願いします。子供に、すべての家庭に平等の権利を！！
不登校になると、お金がかかるし、親が関わったり、学ぶことなど負担が多い。給食費など支払いが必要でないお金など、学校や市なども知らせてほしい、知りたかった。不登校対策は親しだいなので、市や学校の関わりもかわってほしいです。

VOICE 071

フリースクールやフリースペースへ通うのに会費の他に交通費も掛かります。一家に複数の不登校の子が居る場合、親の負担は倍増。是非、金銭的支援をして欲しいです。

VOICE 072

わたしは家族の両親と同居しているため、協力してもらってますが、同居してなかったら仕事を変えざるを得ない状況でした。いま、不登校の子どもが増えているので経済的支援があると安心して利用できるので助成金を希望します。

VOICE 073

- ・給食費が無償化されるなら、食費の補助が欲しいです
 - ・毎日登校が難しい家庭や複数の居場所を利用している子どもにフリースクールや居場所への交通費補助が欲しいです(定期券では割高になってしまう為、ICカードを使っています)
 - ・学びの機会が失われている子に、博物館や美術館、工場見学など社会科見学に使えるクーポンと かあると嬉しいです。
-

学校に行けないだけで、支援からも外さないで。

学びたい気持ちを、お金の理由であきらめさせない。

発行：NPO法人COCORO CANVAS / 不登校の子どもと保護者への経済的支援を求めるプロジェクト